



阿南市の花「ひまわり」の花言葉は、「光輝く」です。人権について考え守っていくことが、まさに光り輝く阿南市づくりにつながります。人権教育・啓発コーナー「ひまわり」では、市民の皆さまの人権に対する思いを掲載していきます。

「幼稚園預かり保育」での人権教育

阿南市立幼稚園預かり保育士

増田 則代 さん

「せんせい、きょうのおやつはなに?」「せんせいおひるねのあとでまたえほんのつづきよんでな!」
預かり保育士として今日も元氣いっぱいの子どもたちとにぎやかに過ごしている。

市立幼稚園の「預かり保育」は、保護者の希望の下、正規の幼稚園生活を終えた園児が、午後2時から5時30分までを4歳児も5歳児も一緒に生活している。
年齢はもちろん性格も個性もさまざま。子どもと接している中で、いつも年度当初は入園児も進級児も子ども一人ひとりの行動や言葉に目を配り耳も澄ませている。「増田」という人間は

思いや願い、いろんな不安を打ち明けてもちゃんと受け止めてくれるのかを試されていると思っているし、保護者にとっても安心していい存在なのだという信頼を得るのに精いっぱいである。また長時間にわたつての集団生活なので、疲れによる集中力の途切れからくる、けがや事故なども起こらないようにも注意を払っている。
幼稚園は保育所とともにその子どもが最初に経験する集団生活であり、社会である。
これからの長い教育期間を終えてやがて親の元から巣立っていった時に、どんな考えの人や集団にも受け入れられるよう、また同時にどんな考えや集団の中でも自分らしさを失わずに、自信をもって生きていけるか、その大切な基礎の部分の育ちを担っていると思っている。
私が子どもと接する時、長かった現役生活から現在まで絶えず心に留めてきた根っこの考えは、「心情・意欲・

態度」この3つに尽きる。
どんな心情を持った人になってほしいか、どんな時に意欲をもつて力を発揮してほしいか、生活のあらゆる場面ではどんな態度で臨んでほしいかなどを念頭において保育している。
幼児は実際に体験したり、思ったり、また心で感じたりすることによっていろいろな力が育っていく。
ある日数人の子どもが砂場で遊んでいる姿を見ていた時の事。
自分が作った川に水を流そうと隣にいた子どもにも「水をくんで来て」と頼んでいた。
頼まれた子どもは気持ちよく「いいよ」と言い、バケツをもって蛇口に向かつて行った。
その子どもは声を掛けてくれたので、きつと川作りに参加させてもらえると、思ってしまったとおりにしたと思う。
水がいつぱい入ったバケツを受け取った子どもは「ありがとう」と言い、お礼を言われたほうもここにこ頼んだ子どもは水を運んでくれた子どもが笑っているのを見て、「この子は水をくむのが楽しいのだ」と思い、それから「もう1回行ってきて」と何度もバケツを渡していた。
砂場と水道を往復してばかりの子どもの表情を見て、その行動を遊びとして楽しんでいたらそれでよし

と見るが、疲れてきたり不公平感が見えてきたりしてきたら「僕ばかりしんどいけん、自分でも行つたら」といつ言えるのかなあと様子を見ながら待つ事にし、必要なら声を掛ける時機を見ている。
この時、早いうちに教師が「自分は楽しいけど水を運んでばかりの人はしんどいよ。代わつてあげたら?」と言つてしまえば、「先生に言われたから」代わつてあげて、代わつてくれた子どもは相手に気持ちを言わなくても「困つたら先生が助けてくれる」のだと思う。
相手の気持ちに自ら気づき、それを大切に思える事も「こんなのおかしい」と思つたら、言葉や態度で表現できるようになる事もすべて人権教育につながる。ついでに。
お互いに気持ちや思いを尊重しあえる人間関係がどんなに大切か知つてほしいし、自分を大切にしてくれて幸せだから、相手も大切にして幸せと思える人に育つてほしい。
今生活している21人の子どもたちも私やお互いの出会いを通して、遊びや生活を楽しみながら、人として大切な事を学んでいってほしい。一度しかない人生なのだから。

問い合わせは

人権・男女参画課

(☎22-3094) へ

